

CSIIを使用する?型糖尿病をもつ中高生の生活の実際と血糖コントロールの工夫

著者	上野 友大
発行年	2019-03-08
学位授与機関	滋賀医科大学
学位授与年度	平成30年度
学位授与番号	第237号
URL	http://hdl.handle.net/10422/00012556

氏 名 上野 友大

学 位 の 種 類 修士 (看護学)

学 位 記 番 号 修士第 237 号

学 位 授 与 の 要 件 学位規則第 3 条第 1 項

学 位 授 与 年 月 日 平成 3 1 年 3 月 8 日

学 位 論 文 題 目 CSII を使用する I 型糖尿病をもつ中高生の生活の実際と血糖
コントロールの工夫

審 査 委 員 主査 教授 宮松 直美

副査 教授 喜多 伸幸

副査 講師 中西 京子

論文内容要旨

※整理番号	242	(ふりがな) 氏名	うえのともひろ 上野友大
修士論文題目	CSII を使用する 1 型糖尿病をもつ 中高生の生活の実際と血糖コントロールの工夫		
<p>目的：CSII を使用する 1 型糖尿病をもつ中高生の生活の実際と血糖コントロールの工夫を明らかにすることである。</p> <p>方法：半構成的面接法による質的記述的研究である。某大学医学部附属病院小児科外来の主治医より患児を紹介して頂き、研究対象者に本研究の趣旨と方法について書面を用いて口頭で説明を行い了承を得た。得られたインタビューデータから逐語録を作成し繰り返し読み込んで全体を把握した。1 つのコードに 1 つの意味内容を含むようにコード化し、コード化したものを目的に照らし合わせながら、類似性、相違性に基づき分類し、コードの共通性を見出してサブカテゴリーを抽出した。複数のサブカテゴリーを類似性に従って集約して、カテゴリーを抽出しカテゴリー間の関連性を考察した。</p> <p>結果：研究対象者は中学生 2 名、高校生 5 名の計 7 名であった。「CSII を使用する 1 型糖尿病をもつ中高生の生活の実際」として【苦痛が少なく生活に合わせて操作できるインスリンポンプを選択】、【人前を敬遠してインスリンポンプを調整】、【機器の操作にふりまわされて困惑】、【節度がない生活で血糖コントロールが悪化】、【病気を知らぬ身近な人の手助けや見守りを享受】の 5 つのカテゴリーと「CSII を使用する 1 型糖尿病をもつ中高生の血糖コントロールの工夫」として【常識的な生活と食事摂取基準を守って血糖値が上がらないように工夫】、【日常の成分計算に慣れて推測してカーボカウント】、【食事を楽しんで気楽に血糖コントロール】、【インスリンポンプの異常を早期に察知し慎重に管理】4 つのカテゴリーが抽出された。</p> <p>考察：思春期である 1 型糖尿病をもつ中高生は生活の中でインスリンポンプの不便さや療養生活の手抜きによって血糖コントロールの悪化を経験したが、インスリン注射よりも利便性が高く周囲の支援や見守りがあることで血糖コントロールしやすい療養生活を送っており、扱いやすく人目を気にせず随時操作できるインスリンポンプが生活スタイルに合っていると考えられた。また、CSII を使用する 1 型糖尿病の中高生は自分に合った血糖コントロールを模索する中で、インスリンを大きく調整しないように生活や食事に注意して血糖コントロールを行っていた。その中で食事を楽しみ、寛容な血糖コントロールを行う工夫でストレスにならない血糖コントロールに繋がっていたと考えられた。</p> <p>総括：CSII を使用する 1 型糖尿病をもつ中高生は、療養生活の中で CSII の利便性を踏まえながら自分なりの工夫で血糖コントロールを行い生活していた。CSII は 1 型糖尿病をもつ中高生が病気と付き合いながら心身ともに健康に成長発達できるようにサポートする一端を担えると考えられる。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1, 200 字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。